

2023.01.15 偽教師に捕らえられてはいけない

第二ペテロ 2章 1～3節

JD ファラグ牧師

天のお父さま、私たちの必要をすべて満たし、提供下さり、氣遣って下さり、心から感謝します。

主よ、あなたが日々与えてくださるお恵みを思います。主よ、私たちが集まり、共に礼拝し、あなたの聖なる御名を賛美できるこの時間を感謝します。みことばに感謝します。この時間を祝福してくださいませうように。主よ、今日あなたがご用意下さっている事を、私たちが聞く耳が持てますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。

おはようございます。ようこそ。ご参加くださり、とても嬉しいです。歓迎します。ご着席下さい。立ったままでも構いませんよ。ー(笑)ー オンラインで参加されている方も歓迎します。ご参加くださり、大変嬉しいです。「第二ペテロの手紙」節ごとの学びを続けます。先週は1章を終えました。今日から2章に入ります。今日の箇所は、最初の3節だけです。

では、ここにいらっしゃる方で可能の方はご起立ください。ご無理な方は、座ったままで結構です。私が読むのについてきてください。というわけで、たぶん立ったままでよかったのでは？ わかりませんが.....さて、使徒ペテロは、今日の御言葉を読む前に次のことを前置きしたいと思います。思い出してください。これは、使徒ペテロの最後の別れの言葉です。つまり、言わば彼の遺言です。なぜそれが重要なのでしょうか？ それは、彼が伝えうるすべてで、ここで私たちが見ていくのは、彼が語るその事（最後の言葉）がこの節にあります。言い換えれば、それほどまでに重要な内容なのです。では、1節から、

ーII ペテロ 2:1ー

しかし、御民の中には偽預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れます。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込むようになります。自分たちを買い取ってくださった主さえも否定し、自分たちの身に速やかな滅びを招くのです。

ーII ペテロ 2:2ー

また、多くの者が彼らの放縦に倣い、彼らのせいで真理の道が悪く言われることになります。

ーII ペテロ 2:3ー

彼らは貪欲で、うまくこしらえた話で（神話です）あなたがたを食べ物にします。彼らに対するさばきは昔から怠りなく行われていて、彼らの滅びが遅くなることはありません。

祈りましょう。お父様、感謝します。主よ、この時、あなたが切に必要です。あなただけが御出来になる通り、聖霊によって私たちの不安な心を落ち着かせ、思考を静め、気が散らないようにしてくださいませうように。なぜなら、主よ、私たちは、そうなるべきなのです。私たちの人生がかかっています。あなたに全神経を集中させなければなりません。敵は、そうさせないよう、私たちの気を散らそうとします。

主よ、どうか、私たちの注意を引き、引き付けて下さったら、主よ、注意を保ってください。そうすれば私たちの思考が彷徨いません。主よ、私たちはあなたの御声を聞きたいのです。この終わりの日には、惑わそうとする声がたくさんあります。でも、私たちが聞きたい唯一の声は、あなたの御言葉を通して私たちの人生に語られる、あの聖霊の静かな小さな御声です。ですから、主よ、どうかお語りください。あなたのしもべたちは聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。今度こそ本当にその時です。ー(笑)ー

今日は、私たちが偽教師をどのように警戒し、どうすれば、彼らに捕らわれないかについて、お話したい

と思います。イエーイ！ 実はこれはまた、非常に深刻な問題です。だからこそ、神はペテロに、聖霊によって、彼の人生の最後に、これを書かせられました。説教のタイトルは、ある意味では言葉遊びのようで、偽教師は「百害あって一利なし」です。つまり偽教師は、私たちを迷わせるため、入り込むという優れた能力があり、また私たちを捕らえることができます。皆さん、意味が分かりますか？ 私たちが、もし彼らを入り込ませたら、本当に彼らに入り込ませたら、私たちは、本当に捕らえられます。本当にその二面です。よろしければ、この深刻な問題について、少し時間をとって言わば背景の話をしたと思います。そのためには、1章の最後、21節の御言葉を参照せねばなりません。ペテロが警告していることを理解するため、この節が重要な意味を持つことになるからです。「第二ペテロの手紙1章21節」、

ーII ペテロ 1:21ー

預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。

ペテロは、旧約聖書の預言者たちのことを指しています。先週見たように、より確かな預言の言葉、成就した預言の御言葉に、私たちは脱帽します。では、ペテロがここで言っているのは、

「日の下に新しいものは何もない。(伝1:9)」

という御言葉と関連して、当時、偽預言者たちが健在で、現在も、偽教師たちが健在だからです。前述の旧約聖書の預言者たちは、多くの偽預言者続出の中で、主の御名によって預言をしました。世代が変わっても、あまり変わりません。ペテロが言っているのは、昔の預言者たちがそうであったように、今もそうだとことです。彼らが偽預言者に対処せねばならなかった様に、あなたがたや私も、偽教師に対処せねばなりません。旧約聖書の預言者たちは、耳障りで受け入れられない真理を語るため、揺るぎない不屈の精神と恐れなき忠誠心で、自分自身に大きな犠牲を払いながら、たった一人で立ち向かいました。死の危険があっても、彼らは動じませんでした。大きな犠牲を払いました。「エレミヤ書」木曜日の夜の聖書の学びで、エレミヤ書を学んでいます。ちなみに、今週の木曜日は49章です。あと少しでこの書を終えます。もっとエレミヤ書を味わってみたいです。エレミヤ書を学んで、エレミヤを大好きになったのではないですか？ この人は、多くの苦難を経験しながらも、決して揺らぐことのない、素晴らしい神の預言者でした。「エレミヤ書5章31節」エレミヤはこう書いています。

「預言者は偽りの預言をし、祭司は自分勝手に治め、わたしの民はそれを愛している。結局、あなたがたはどうするつもりなのか。」

皆さん、わかりますか？ この偽預言者たちに、民衆は大喜びでした。彼らは、偽りの預言をしていました。彼らは偽預言者でした。それが偽預言者のすることです。彼らは偽りの預言をする。再度、意味深です。しかし、彼らはあなたがたに嘘をついています。問題は、あなたがたが、彼らにそうしてほしいと望んでいること。あなたがたは、彼らがそうするのが好きなのです。人々はそれが大好きです。預言者エレミヤは忠実に立っていた。そういう文脈です。23章16節から17節です。

ーエレミア 23:16ー

万軍の【主】はこう言われる。「あなたがたに預言する預言者たちのことばを聞くな。彼らはあなたがたを空しいものにしようとしている。彼らは【主】の御口からではなく、自分の心の幻を語っている。

ーエレミア 23:17ー

彼らは、わたしを侮る者に向かって、『【主】はあなたがたに平安があると告げられた』としきりに言い、頑なな心のままに歩むすべての者に向かって、『あなたがたにはわざわいが来ない』と言っている。」

「ええ、しかし、エレミヤはバビロンの侵攻とそれに続く捕囚について預言しています。彼は、『来るぞ、来るぞ』と言っていますよ。」「いや、来るわけがない！エレミヤの言うことを信じてはいけません。」「ええ、でも彼はそれが起こると言っています。」「いや、そんなことは起こるはずはない！」唸り声を出さないといけません。「いやー！そんなこと起こらない。」と。イザヤ書 30 章 9～11 節イザヤ書の学びにおられた方々にご存知ですね。強烈でしたよね？

—イザヤ 30：9—

彼らは反逆の民、嘘つきの子ら、【主】のおしえを聞こうとしない子らだから。

—イザヤ 30：10—

彼らは予見者に『見るな』と言い、先見者にはこう言う。『われわれについて正しいことを幻で見るな。

(お～正しいと分かっているんだ！)

...われわれに心地よいことを語り、だましごとを預言せよ。

「嘘を語ってよ。心地よい小さな嘘を。」そんな歌がありましたね？きっと。これを聞いてください。これは、民衆が預言者に対して言ったことです。「私たちは真実を聞きたくはない。嘘を言ってくれ。」「そんな悲観的な聖書預言・アップデートを毎週聞きたくない。」—(笑)—

「私たちの耳に心地良い、聞きたいことを話してほしい。」「神の裁きではなく、神の愛について語ってくれ！」「神の怒りではなく、神の愛について語ってくれ！」上手くしすぎましたかね。よくわからないけど。何年も練習してますから。彼らはさらに踏み込みます。想像できますか？ 11 節で、大胆にもこう言います。

—イザヤ 30：11—

道から外れ、道筋からそれ、われわれの前からイスラエルの聖なる方を消せ。

ワァオー。お付き合いください。ペテロは、イザヤやエレミヤを参照し、当時、偽預言者たちに立ち向かった人たち全てを言及します。この偽預言者たちが何をしたのか、少し詳しく知ることができます。想像できますか？「まあ、当時は当時ですよ、牧師さん。」ううん、ううん、ちがいます。罪を保護するため、名前を変えています。こんにちも健在です。「使徒の働き 20 章」に早送りします。ここはおそらく、聖書の中で最も心が痛む箇所の一つで、使徒パウロの心中を垣間見ることができます。彼の言葉に耳を傾けてください。29 節、

—使徒 20：29—

私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。

—使徒 20：30—

また、あなたがた自身の中からも、いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。

—使徒 20：31—

ですから、私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

ここでペテロです。ペテロとパウロは、非常によい関係を築いていましたが、ある時点でとても辛い時期がありました。パウロがペテロを叱責しなければならなかったときの記録が残っています。ペテロはパウロをよく知っていました。ここでペテロは、パウロを反復し、彼も偽教師について警告していると思

ます。そしてまた、遺言として、このことを話すくらい重要なレベルです。それを今から見ていきます。ペテロは人々を愛するがゆえに、自分がいなくなった後のことを前もって警告したかったのです。「使徒の働き 20 章」の使徒パウロ同様、ここでペテロが人々に警告します。「あなたがた、私はもう長くは一緒にいられません。どうか、こういう偽教師がいることを知ってください。あなたがたの中から、教会に大混乱をもたらす偽教師が出て来ます。このような背景を踏まえて、今日、私たちの目の前の難しい箇所に取り組む準備ができたと思います。”T”をいくつも入れましたが、気に入ってくれました？ このように、私たちが心の守りを固めることで、なぜ心が落ち着くのか、その理由を具体的に示したいと思います。そうして以下は、5つの結論です。狼や偽教師が私たちを迷わせようと、そうやって私たちの前に立ちだかろうと、彼らを寄せ付けないための理解するなら必要な効果になるはずで、1つ目は、1節前半、「偽教師は、私たちの中にいることを知る」問題でしょうか？ 敵が、大きな成功を収めていることの一つで、彼は、こっそり忍び込みます。内に隠れています。「聖書預言・アップデート」で話したように、サタンは教会を、外から滅ぼすことができません。ではどうするのか？ 内部からします。内部から滅ぼします。クリスチャンはとても繊細で、信じやすく、無邪気で純粹です。羊のように、ただ信頼します。私たちは、ただ信じてしまいます。人々を受け入れ、包み込む優しさをもって信頼し、歓迎しながらも、人を見極める能力を持つ必要があります。もし霊を見極めることができるなら、彼らが既に私たちの中にいることが分かるはずで、頭を下げて目を閉じます。隣の人を見ないように...今すぐ指摘しましょう。—(笑)— 偽教師に捕らえられないための最善の方法は何かと私に聞くなら、これが一番です。その理由を説明します。繰り返しますが、偽教師が私たちの中にいるかもしれない、ではなく、間違いなくいること、私たちの中からさえ出てくることを「知る事」が注意喚起です。お決まりは、「かも」ではなく「必ず」、私たちの中に現れるのを「知る事」今、皆さんは言わばアンテナを張りましたね。ガードを固めて、見極める目を持つのです。試合開始のようなものです。この例え適切ですか？ もしかしたら、違うかも。要点は分かりますよね？ いいですか？ ありがとう兄弟、神の祝福を。大変感謝します。あなたは識別力を身につけ、見極めることができるようになり、甘い考えで信じて、もはや騙されることはありません。「もしも」ではなく、この警告を心に留める「時」、私たちは不意を突かれることはなく、悲しいことに、多くの人がそうですが、私たちは油断に付け込まれません。私たちが既にこれを意識している「時」見極めているので、偽教師が私たちの中から「もしも」ではなく、出てくる「その時」、あなたは、1マイル先からでも見分けがつきます。

2つ目、1節の後半にあり、「彼らは、破壊的である」

「じゃあ、牧師さん、偽教師に捕らえられないためには、どうしたらいいのですか？」「本当に彼らは破壊的なのですか？」はい。その答えは二面です。今からすぐ見ていきますが、まず何よりも、識別子を知ることで、私の心は落ち着きます。その理由は、ペテロは、私たちに、偽教師をどのように見分けるかについて教えてくれています。彼らはこっそり忍び込むからです。彼らはいつもこっそりと、破壊的な異端を持ち込むので、見分けることができます。それは非常に狡猾です。サタンは、非常に巧妙で賢いです。

「聖書預言・アップデート」で話しましたが、使徒パウロはコリントの信徒宛の手紙で、私たちに警告し戒めました。「無知であってはなりません。悪魔の策略に対して、無知で世間知らずであってはなりません。」欽定訳での単語が好きです。「the wiles of the devil/悪魔の策略」それだけでとてもよい説教になります。悪魔の策略、戦略、戦術。もう一度言いますが、サタンは私たちが知っている以上に、ずっと聖書を知っています。彼は、私たちを捕らえる方法を知っていて、教会に忍び込み、滅ぼす方法を

知っています。教会の中で混乱を起し始めます。サタンの唯一の目的は、教会を滅ぼすこと。彼は教会を憎んでいます。「ヨハネの福音書 10 章 10 節」イエスは仰います。「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。」それがサタンの唯一の目標です。ええ私たちは、それが、彼のする事なのは分かっています。では、どうやってするのか？ これが方法です。これまた悲しいことですが、このあと分かるように、このことでサタンは、一定の成功を収めています。でも、サタンは、パウロが警告するように、羊の皮を被った狼として潜入します。狼だと見分ける方法はこうです。皆さん、準備はいいですか？ 言いますよ。羊を食べれば、それは狼です。もう一度言ってみましょう。－(笑)－パウロは、この狼たち、偽教師たちは、群れを惜しまないと言っています。狼は、何をするのか？ 羊を食べます。これって言いすぎですか？ 分かりませんが、もっといい例を考えるべきですかね。もしあれば、ぜひ教えてください。でも、それが狼のやることです。それが、偽教師を見極める方法です。しかし、それは非常にこっそりで、密かです。密かな方法で、極秘です。狡猾に入り込み、破壊的な偽教義を密かに持ち込みます。そして、弟子たちを自分たちのもとに引き寄せようとするので、見破ることができません。その様子とは、この神の教会を守る神の御手に心から感謝します。長年にわたり、神は、この貴重な信者の体である教会を猛烈に守っておられます。そしてまた、この素晴らしい教会の牧師であることは、私のこの上ない特権です。でもその様子とは、誰かが入ってきて、自己紹介をすると、次に彼らはこう話します。「ねえ、君は御言葉の深いところに興味がありそうだね。」－(笑)－ ちょうど、そんな感じです。それが致命的です。「あ、そうそう、JD 牧師はいい教師だよ。しかし、こっちに来るべきだね。僕らは聖書研究していて、御言葉に深く触れるんだぜ。」いや、そうではないでしょう。弟子たちを、自分のもとに引き寄せます。あなたは彼らを迷わせます。次に、ペテロも言及しているように、彼らはキリストの神性を否定します。「そうそう、イエスは救い主だ。彼は主だ、贖い主だ。イエスは、神ではない。」と。お、それについては、ヨハネに聞いた方がいいかもしれません。ヨハネは、イエスが神でないと言う者がいれば、

「偽り者であり、その人のうちに真理はありません。」(I ヨハネ 2:4)

と、言ってます。彼らは偽者です。皆さん、これは必要な強さです。私たちは霊的背骨を持つ必要があります。狼たちに立ち向かい、「お前は狼だ。」と言えるように。「お前は狼だ。」私たちが狼をどうするか知っています？ まあ、ここでどうするかは言いませんが、これまでにありましたよ。彼らはさほどいられませんでした。主よ、ありがとうございます。(会衆：アーメン) 私たちは、彼らに聖書の箇所は見せません。時間を無駄にしません。彼らには、カメハメハハイウェイを見せます。(帰りなさい) －(笑)－本気ですよ。私たちには、神の群れの監督者という深遠な特権があります。もし狼がここにやってきて、勧誘や布教を始め、人々を自分たちのもとに引き寄せたら、それで見分けることができます。狼はとても狡猾なので、見分けることができます。彼らはとても狡猾で、忍び込んで来ます。この意味が分かりますか？ こう言えばわかると思います。誰かと会話した後、シャワーを浴びたい気分になったことはありませんか？ なぜか、侵害されたような気分で、おそらく聖霊でしょう。そう感じたのですから。そういう洞察力があることを神に感謝します。それが聖霊です。決して、その聖霊の働き、間合いに逆らってはなりません。それは、聖霊が仰っています。「気をつけなさい。警告、警告、警告！ 光が消えます。」車のダッシュボードに警告灯があるでしょう？ あれ大嫌いです。特に、タイヤの空気圧が低いというサイン。そうなの？ 車から降りきやならない。でもタイヤは平らじゃない。なぜ、タイヤ圧が低いことを知る必要があるの？ 何でもいいけど。絶縁テープを貼って隠せばいいんです。－(笑)－ 皆さんだっ

て、そうするでしょう？　なんて迷惑なんでしょう。しかし、その（聖霊の）警告を無視してはいけません。それは、あなたを破滅から守るためです。だから警告ライトがあります。オイル低下の警告はどうです？　それは、何とかした方がいいかもしれません。でないと、クリスチャン生活のエンジンが壊れてしまいます。破壊的になります。

では3つ目、「彼らは成功する」

またしても、イエーイです。「これがなぜ私に役に立つの？　説教のタイトルは、“偽教師に捕らえられない”です。なのに、彼らが成功すると言うのですか？」そうです。ペテロが「多くの者」と言ったことで、彼らが一定の成功を収めることが分かります。

「多くの者が彼らの放縦に倣い」(II ペテロ 2:2) と、言っていなければよかったのですが。使徒パウロがテモテに書いた別れの言葉：言わば遺書を、もう一度考えます。使徒パウロが書いた最後の手紙、「第二テモテへの手紙」です。パウロは、自分の死期が近いことを知っていました。テモテにもそう言っています。

「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道りを走り終え、信仰を守り通しました。」(II テモテ 4:7)

「あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。それは、私だけでなく、主の現れを慕い求めている人（私たち）には 誰にでも授けて下さるのです。」(II テモテ 4:8)

別れの言葉です。でもパウロは、何を話すつもりだったのでしょうか？　私でしたら、たぶん携挙の話をするでしょう。私の別れの言葉です。

「JD 牧師、もう一回手紙を書いて、もう一度説教をするなら、何の話をしたいのですか？」携挙について話したいです。

「OK。それがあなたの話したいことかもしれませんが、あなたが話す必要があるのはこれです。」

パウロは、第一テサロニケ人への手紙で、もちろん携挙について語りました。使徒パウロの手紙の中で、福音が初めて語られたのは、「第一テサロニケ人への手紙」です。彼がその教会を始め、その教会にいたのは確か 3 週間程度だったと言われています。彼は町から追い出されました。彼は、テサロニケの人たちをととても愛していました。そこは彼が建てた新しい教会の新しい信者でした。

「パウロは彼らに、聖書預言について教えているの？」「そうです。」「携挙について教えてるの？」「そうです。」なぜなら携挙は、福音の一部だからです。福音を省略しないでください。福音とは、イエスが私たちの罪のために死なれ、葬られ、三日目によみがえり、「そして」ある日戻って来られることです。それが福音です。想像してください。よみがえられた、でおしまいだったら？　イエスは死なれ、葬られ、よみがえられた。御機嫌よう。そうですか。どうもありがとうございます。違います！　イエスは戻って来られます。「イエスが？」そうです。「ほ～いつですか？　どれくらいすぐに？　もうすぐでは、十分ではありません。「私をここから連れ出されるということですか？」そうです。　まあ！それは良い知らせです。特に今、世で起こっているすべてのことを考えると。

では偽教師がどう成功するのかという問題に話を戻します。ペテロがここで話すのと同様、パウロがテモテに書いた手紙は、大多数が、少数であってほしかったのですが、多くの人たちが、聞きたいことを話してくれる教師：偽教師に群れで大勢集まると言いました。彼らは健全な教義に耐えられないからです。彼らは、悲観的な話をするエレミヤの教会には行きません。

「ねえ、あの人の教会に行こうよ。聞きたくて耳がうずうずすることを話してくれるんだも～ん。”神はあなたを愛していますよ”って。」神は愛しておられますよ。でも、イエスが来られます。まもなく来られ

ます。あなたは主にあって、正しくなる必要があります。生まれ変わらなければなりません。真理を説き、聞く必要があります。

「テモテよ、みことばを宣べ伝えなさい。御言葉を説きなさい。縮こまってははいけません。エレミヤになりなさい。イザヤになりなさいイザヤが真っ二つにされたのをご存知ですか？ 何という死に方でしょうか。エレミアについては、不明です。木曜日の夜のネタバレですが、49章です。52章まであって、あと少しで終わります。この書は、ほろ苦い結末になりそうですが、私たちに分からないのは、神が意図的に、恵みで、その事を私たちに知らせておられないのでしょうか。聖書が沈黙している事は、私たちが沈黙したほうがいいです。エレミヤが、どのように亡くなったのか本当に分かりません。彼は老衰で亡くなり、神に忠実な僕であるこの預言者は、ただ主の元へ帰ったと思いたいのです。使徒ヨハネについても、同じことを考えてました。彼はなぜ、いつ、主の靈感を受けて、聖霊の御力によって、イエス・キリストと未来について黙示録を書いたのか、ご存知ですか？「ヨハネの黙示録」とは、う”～～ ヨハネの黙示録ですね。

西暦95年頃、彼はパトモス島に追放されました。オアフ島を想像しないで下さい。そこは樂園のような島ではなく、人々を死に追いやる不毛の島でした。彼は、現在のトルコの沖合約80キロエーゲ海に浮かぶこの島に追放されました。置き去りにされました。なぜヨハネがそこへ送られたのか知っていますか？彼らはヨハネを殺そうとしましたが、死ななかつたのです。神は彼を見捨てておられませんでした。神は、まだ彼へのご計画があらわれました。教会の歴史家の記録によれば、彼らはヨハネを捕まえて、昔の預言者たちを黙らせたように、ヨハネを黙らせようとしてました。彼らは彼を殺して黙らせようとしてました。どうやって彼を殺すつもりだったのか？ 煮えたぎる油の釜に投げ込みました。なんということ！ 死ぬと思うでしょう？「これが終わり方です。主よ、ありがとうございます。」でも彼は死にませんでした。彼らは、この煮えたぎる油の釜から彼を引きずり出しました。「この男をどうすればいいのか？」「わからない。パトモスに送れ。」「よし。ここから放り出せ。」神のなさることは完璧です。予定通りでした。

「あなたをパトモス島に追放し、啓示（黙示録）を与えます。」ヨハネは、弟子たちの中でたった一人老衰で亡くなりました。ペテロがどのように亡くなったかご存知ですか？ それについてもっとお話ししましょう。私たちは既に分かりますね。イエスがこう仰ったとき、ペテロはすでに悟っていました。

「ペテロよ、あなたは望まないところに行き、死にたくない死に方をする日が来ます。」（ヨハネ 21:18 参照）

再度、教会の歴史家たちによると、彼は主と同様、十字架にかけられましたが、自分が十字架にかけられるには値しないとして逆さに十字架にかけられるよう頼んだ。どうです？ それがこのペテロです。私たちはその彼の手紙を読んでいるのです。彼は、この問題に関して、私たちの人生に語る権利を得たのだと思います。では再度、質問です。

「偽教師たちが成功すると知っていることが、なぜ、どのように、私を助け、彼らに捕らえられないようになるのか？」このようにお答えします。個人的に私の人生で、この点に関して、神は私を、私の責任から解放することによって導いて下さいました。どういう意味ですか？ 私の責任ではなく彼らの責任です。私は、ただ鋤に手をかけ続け、御言葉に忠実であり続け、イエスがヨハネに書かせられたフィラデルフィアの教会（黙示録3章）の様に、主の御名を否定しない。「我関せず」です。そう、サタンはこれも知っています。彼が人々を引き離し、迷わせることにどれだけ成功しているかに集中させられれば、あなたの心を追い詰めることができるのを。サタンが、牧師を捕らえ、特に、御言葉と真理の説教に焦点を当

てるのではなく、サタンが、牧師の気を散らせられれば、突如として、牧師たちがすること全て、そう！サタンの意のままです。知らないうちに裏口から入って来た。そんな身近でない所を見る必要ありません。率直に言えば、胸が張り裂けます。私の心に喜びはありません。多くのミニストリーがこのように破壊されるのを見てきました。彼らがするのは、敵対とか指摘とか、それがミニストリーの全てです。彼らは、自分たちのことを「見極めるミニストリー」と名乗っていると思います。所謂「見極めるミニストリー」の問題点は、あなたのミニストリーは、偽教師を攻撃することに専念しているなら、福音はどこにあるのですか？ これは例と描写ですけど、参考になると思います。ホノルルいて、カイルアに戻るときに、標識があって、こう書いてあるとしたら、「これはカイルアへの道ではない。これは間違いです。」素晴らしい！じゃあ、どうすればいいの？ 私は、その道が知りたいのです。

「これが道（方向）です。」という標識がほしいんです。じゃあ公平を期すと、指摘をする人がいます。使徒パウロは、私たちが彼らの特徴づける事を明確にし、名前さえ挙げていて、パウロ自身、何人かの名前を挙げています。想像してください。約 2000 年以上も前から、全信者はもちろん、信者でない人もその人たちの名前を読んできていますよ。聖書に書いてあります。異端者として、偽教師として名を残すのはどうです？「おお、あの男か。」そうです。約 2000 年もの間、そこにあなたの名前があったとしたら？ソーシャルメディアより悪いです。ソーシャルメディアは短命ですから。「牧師さん、何がポイントですか？」ポイントはありますかと聞かれるかも知れませんね。はい、ポイントはあります。私のポイントは、主は知っておられるという事です。主に対処していただきます。ええ、主はなさいます。このあとすぐ分かります。自分自身でしないでください。神はあなたをそんなことに召しておられません。神は、あなたを光になるよう召されたのです。御言葉を宣べ伝えること。真理を語り、あらゆる国の人々を弟子とするために。父と子と聖霊の御名によって、彼らに洗礼を授ける。それが、あなたの召しです。地の果てまで（御言葉が）届くように。偽教師の狩人にならないでください。あなたの責任ではありません。私はそこからあなたを解放します。私が解放されたのです。以前は、彼らに私を捕らえさせていました。

「神よ、何が起きているのかご覧になっていませんか？」

「JD、わたしはもちろんすべてを知っています。「なぜ、そんなことをさせるんですか？」「分かっていますよ。」「私が何か手伝いましょうか？」「いいえ！JD、この件に関してあなたの助けは必要ありません。」「いや、でも、あなたの力になりたいんです。」「わたしを助けたいのですか？じゃあ、助けないでください。」そう、自分でしようとしている。そう、何が起こるかという、偽の教えには、偽の告発が伴います。それに自分を捕らえさせてしまう。自分を捕らえさせてしまうと、敵の思うつぼです。彼の手中にはまることになります。最初からそれが敵の意図だったのです。敵は「兄弟たちの告発者」です。（黙示録 12:10 参照）「混乱の作者」です。敵は、「偽りの父」です。これが特徴で、目印です。皆さん、それで分かるのです。これが一定の成功を収めているのが見える時、神がご存知だと知ってください。神はご存知です。神に、念押しし続ける必要はありません。

「神様、彼らが今回やったことをご存知ですか？彼らが今回言ったことをご存知ですか？どうすればいいですか？」「わたしは知っています。」「では私に手伝わせてください。」「いいえ。止めなさい。わたしを助けないでください。」「ええ、でも彼らは成功しているではないですか。」「分かっています。分かっていますよ。わたしに最終決定権があります。」

4 つ目、3 節の最初の箇所「彼らは欺瞞的」

そう思いますか？ 当たり前のことをしっかり把握しましょう。ペテロがここで語るのは、このような

偽教師たちは、その貪欲さゆえに、神話で人々を利用し、搾取する事。神話は、真理の対極です。寓話で、偽りです。ここでまた、偽教師が私を捕らえないよう、これがどう役立つのか？ そう、真理を守る人たちを大いに励ますことができます。彼らは簡単に騙されません。私自身、自分の人生の中で、神が働いてくださっています。彼らは傷つけることはできても、害を与えることはできません。皆さん、この2つの違いが分かりますか？ 偽教師、偽りの告発があると、やはり傷つきます。でも、以前ほど酷くありません。私は、真理の正しい側にいるのだと知っているからです。だから、犬には吠えさせればいいのです。犬は吠えるものですからね。小さな犬を飼っていますけど、いつも吠えます。どうでもいいことです。同じ郵便トラックが停まると吠える、吠える、吠える。「バディ、(犬の名前ですが) 郵便だよ。」

「分かっているんだけど、やっぱり吠えたいくなる。」それが犬の仕事です。吠えます。偽預言者、それが彼らの仕事です。犬には吠えさせましょう。吠えろ、吠えろ、吠えろ！ あなたを捕らえさせないように。もし、彼らにあなたを捕らえさせたら、どうなると思います？ 彼らは、あなたを捕らえます。またしても、意味深ですね。しかし、それがサタンの望むこと。あなたを捕らえたいのです。外側からあなたに手を出せないから、そういう方法でしてきます。敵にそれをさせてはいけません。彼はあなたを脱線させたいのです。あなたの気を散らせたいのです。また別の話ですが、“気を散らせること” これで全て、気が散ります。サタンは、気を散らせる達人です。ちょっと韻を踏んでいる感じですね。お～彼は、私たちの気を散らすのがとても上手いです。「メッセージから離れろ。軌道を外せ。」これは、気を散らさせる惑わしです。そんなことさせてはいけません。だから、突然、今、私はこのことに集中している。

「何ですって？ これは、あなたの召しに関係ありません。なぜそんなことをしているのですか？」
惑わしです。気を散らされています。聖書預言・アップデートでお話しました。何度も「聖書預言・アップデート」の話をするをお許し下さい。難しいアップデートの1つで、いつもと少し違う趣向ですが、サタンは、間で双方を煽り、弄び、政治分野でもそれをしてしているという話をしました。彼は、私たちが互いに敵対するよう仕向けたいのです。私たち 対 彼ら というように。そうやって人を欺き、気を散らし、滅ぼしていきます。他にどう言えばいいのかわかりません。教科書通りの「分裂と征服」です。政治だけでなく、人種についてはどうです？ 白人 対 黒人 もう一度言うことになるかもしれませんが。気にしないで下さいね。主任牧師を筆頭に、皆さんの牧師たちは人種差別主義者だと知っていますか？ どういうこと？ 私はアラブ人、レイトゥ牧師はサモア人、マック牧師はアフリカ系アメリカ人です。ここには白人の牧師はいません。-(笑)- 笑ってくれてありがとう。自信なかったんです。でしょ？「さあ、黒人と白人を戦わせようぜ。左派 対 右派だ。」彼の手中にハマる。間で双方を煽り、弄ばれる。表裏一体です。同じ鳥の2枚の羽、同じ方向に飛びます。サタンはとても欺瞞に満ちています。彼は非常に欺瞞的です。信じるクリスチャンを騙します。今まさに起こっていること、

左派 対 右派、右派 対 左派。

共和党 対 民主党

民主党 対 共和党

黒人 対 白人

白人 対 黒人

彼の思惑通りです。それが全ての狙いでした。私たちは、血肉(人)と格闘するものではありません。

人種は一つしかないんですよ。「人類」

ある人がいみじくも言ったように、肌の問題ではなく、罪の問題です。

私の聖書を読むと、御座の前には、すべての国民、部族、舌、そして人です。待ちきれませんね。全人類。こうやって、サタンは滅ぼし、気を散らし、欺きました。

最後に（感謝なことに）、3節の後半部分。私の役割での神聖なる満足です。ペテロの役割も追加します。理由は、ペテロが書いた3節の終わりに注目ください。彼がこれを、靈感によって書いた方法が大好きです。

「彼らの滅びが遅くなることはありません。あなたは遅いと思うかもしれませんが。」

「主よ！彼らはいつになったら滅ぶのですか？」「あ～心配しないでください。任せてくださいと言ったでしょ。わたしはすべて知っています。わたしがします。」「ええ、でも、神様、彼らを裁いてください！」

「ええ、します。」「では今朝、裁きは眠っているのですか？だって、、、」「いいえ、眠っていませんよ。わたしは非常に分かっています。」寝ているときは、周りで何が起きているのかわからないですよ。でも起きているときは、警戒しますね。少なくともコーヒーを飲んだ後はね。ー(笑)ー ですよ？

神様、ありがとうございます。天国にはコーヒーがあると思いますが、それはまた別の機会の別の話です。ペテロは言います。「彼らの滅びが遅くなることはありません。やって来ます。」さて、なぜ神は使徒ペテロにそのように書かせ、私たちに落ち着かせられたと思いますか？ 私たちは皆、激昂していますから。私たちは皆、興奮しています。どうか落ち着いてください。彼らは滅ぼされます。終わりには、彼らは、彼らの滅びを受けます。これは喜ばしいことではありません。神は悪の処罰を喜ばれません。

木曜日の夜、「エレミヤ書48章」で見ました。神ご自身が、モアブ（現在のヨルダン）に下す裁きのため泣き、嘆いておられます。神はそれを喜ばれません。神にとって、心が痛むことです。ところで、神は最後に彼らを回復させられます。主は、回復の神です。しかし、裁きの神でもあられます。ちなみに、この人たちはクリスチャンではありませんよ。行動や話し方、手に持つ聖書とは裏腹に彼らは狼で、偽者です。願わくは、私たちは聖霊の御力によって、キリストにあって勇気を持てますように。目と目を合わせて、言うのです。「あなたは偽者だ。これは真理ではありません。私の前から消えろ。私の教会からも出て行け。」でも、再度、私は.....悔い改めました。また悔い改めないといけなそうです。私は、告白しています。つい彼らに、怒ってしまうんです。でも、私を落ち着かせるこのような節がたくさんあります。以前は彼らに怒るだけでなく、彼らを恐れていたんです。しかし、このような節があると落ち着きます。今では、彼らに腹を立てたり、恐れたりするのではなく、彼らに何が起こるのかを知り、気の毒だと思うようになりました。ペテロがこれを書いた強さに気づきましたか？ おお、彼らの滅びは遅くなっていません。彼らは滅ぼされます。彼らの滅びはやって来ます。彼らは滅ぼし騙したけれど、彼らが滅ぼされるでしょう。お～主よ、ありがとうございます。いつですか？ また聞きますけど、私だけです？ 私は、慈悲深くなりましょう。OK。やってみます。みんなが私に慈悲深くなってほしいから。でも、これは非常に必要な効果です。最後に、これで締めくくります。「詩篇73篇」のひとつときで。この詩篇の作者アサフは、このことに大いに悩みました。実は、このことで彼は信仰の危機に陥りました。邪悪な者たちが、何をやっても成功し、繁栄していることが、どうしてなのか、理解できなかつたのです。ここで彼は忠実に、正しく歩んでいます。無駄に自分の手を清めてしまったという感じです。何のために私は、正しく歩んでいるのだろうか。私は、試練に次ぐ試練、逆境に次ぐ逆境、苦難に次ぐ苦難を経験している。ここにこの邪悪な偽教師、異端者がいる。もっと単語は付け加えられます。彼が触れるものはすべて黄金に変わるようだ。なぜ、そんなことを起こされるのですか？ 神よ、不公平です。神はこんな感じです。「わたしはまだ終わっていません。」そして、この詩篇の最後に、彼は主の聖域に入ります。行くべき最高の場

所です。ところで、このことは、彼が主の聖域にいなかったことを示します。そのため、彼は非常に葛藤し、信仰の危機に陥っています。彼は主の聖域に入り、主は彼に彼らの終わりを見せられます。彼はとても怒っていて、実際には、神に対して幻滅している感じです。彼らにあれを許しているのは神のせいだから。彼らは邪悪。どうしてですか？ 神様。神は 3 節で、彼らの結末を示されます。するとアサフは、「ほ~もう大丈夫です。」と。お~神様、お~~神様！ 彼は正気に戻ります。「わかりました、主よ。」彼は基本的に悔い改めます。主よ、申し訳ありません。私は何を考えていたのでしょうか。最終的に彼らは、自分たちにふさわしいものが下されます。ですから私は、彼らに私を捕らえさせません。主よ、ありがとうございます。

カポノ、上がって来てください。ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様、ありがとうございます。これは難しい内容ですが、とても必要です。これは、私が教えるべきテーマとして選んだものではないことを、容易に認め、率直に告白します。神に感謝します。1 節 1 節、すべて神の全託宣です。ですから、これほど重要なことを飛ばすわけにはいきません。主よ、警告をありがとうございます。主よ、このことで怒り、影響され、動揺したすべての人のために祈ります。ただ、彼らの心が落ち着きますように。彼らの焦点が、あれやこれや彼らではなく、あなたに向けられますように。ですから、イザヤと同じように、お~それが大好きです。なんという深い御約束でしょうか。

「あなたは、志の堅固な者を（あなたに思いを留まらせている者を）完全な平安のうちに守られます。」
（イザヤ 26:3）

お~主よ、これにこだわることで、敵が、私たちの思いを邪魔しないようにしてください。主よ、私たちがあなただけに集中できるように助けてください。主よ、私たちがそう出来ることをあなたに感謝します。主よ、真理に感謝します。主よ、ありがとうございます。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7